

特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 27

ASEAN グローバルプログラム に参加して

北川 達也

Tatsuya KITAGAWA

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイ、シンガポールでの ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回の具体的な研修日程を表に示す。今回の研修の内容は、ベトナムではPBLを通しての現地学生との交流や現地に展開している日系企業への企業見学、シンガポールでは大学見学や講演会などであった。それらを通して日本と東南アジア諸国の違いを学び今後の学業、仕事に生かしていくことができるプログラムであった。

表 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において 現地学生とのPBLおよび発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

2. 参加目的

私が本プログラムに参加した目的は、自分の進路の選択肢を増やすためであった。個人での旅行で海外に行くことはあるかもしれないが、実際に海外で仕事されている方のお話を伺わせて頂いたり、現場

を実際に見せてもらうことはないと考えた。このプログラムでは、国内だけでなく海外に出て働くということも一度自分で考える良い機会になると思ったので参加した。

3. 研修内容

3.1 PBL

ベトナム ハノイにてハノイ工科大学の学生達と協力し、PBL (Project-Based Learning) を行った。現地学生とは英語を通して会話を行うことで、自身自身の英語力を試せた。

3.2 企業訪問

ベトナム、ハノイ滞在中、3つの日系企業および現地企業を訪問させていただいた。

一つ目が日系企業である株式会社タカギの関連会社である TakagiVietnam であった。タカギでは工場の見学と、現地で働いておられる日本人の方々のお話を伺った。まず工場見学をさせていただいて驚いたことは、ほとんどが現地の女性従業員で作業されているということだ。これは日本人とベトナム人の人柄の違いで、ベトナムの人々は女性の方が男性より、より活発に働くとのことだった。日本では男性が外で働くことが多いので、ベトナムとの社会性の違いにとっても驚いた。自分の中ではどこの国でも男性が主体で働いているものと思っていたが、これは日本だけの常識かもしれない。また現地滞在中の日本の方にお話を伺って、海外で働くうえで大変なことの一つが、やはり言葉の壁だと伺えた。いくら英



写真 TakagiVietnam 訪問時の様子

語ができて、それだけでは仕事が出来ないのだと改めて思った。

二つ目の企業は IT 関係の現地企業の株式会社リッケイソフトである。事業内容はウェブ・クラウド開発、モバイル・ゲーム開発、業務・金融システム開発などである。この企業の方々は、主な取引先が日本ということもあって社内で日本語が話せる人が多数を占めていた。社内の雰囲気は、バランスボールや数種類の息抜きをするための道具が置かれてあったり、決して私がイメージしていたような気が張った雰囲気ではなく驚いた。

三つ目の企業は IT 関係の現地企業の NTQ SOLUTION であった。ソフトウェアの開発や web デザインなど多岐にわたる IT 関係に携わっておられる企業である。こちらもリッケイソフトと同じく取引先のシェアの 9 割が日本とのことだった。リッケイソフトは日本にも支社をおいているようだった。どちらの企業も主な取引先が日本であるにも関わらず、社員に日本人が 1 人いるかいないかということに驚いた。社内の日本人スタッフは、リッケイソフトでは 1 人、NTQ にはいないということだった。よって、どちらも社内で日本語検定を行って社員の日本語力の底上げを行っていた。インターネットの世界なので英語さえできていればいいと思っていたが、やはり取引先の言語も仕事と並行して学んでいることには仕事への熱意を感じることができ

た。これまでは仕事をするまでに資格やスキルを取得しないといけないと思っていたが、仕事をしながらでも学んでいけると知った。

3.3 シンガポールでのプログラム

シンガポールでは、現地で働かれている方々と交流するビジネスパーソン交流会や講演会があった。海外企業に就職された方や海外にて企業された方、日系企業から出張にて勤務されている方など様々な経緯で働かれている方々のお話を伺うことができた。このほかに、南洋理工大学を訪問し、実際の授業を参観したり研究室をめぐるプログラムもあり、別の大学や分野の最先端の研究に触れ、視野が広がったように思う。

4. 実習を終えて

今回のプログラムを通して今まで経験したことのないようなことを経験ができた。自分の英会話の力がいかに不十分なのかもよく分かった。さらに自分の将来への見通しの悪さも確認できた。この経験を大切にして学校の勉強以外にも英語の勉強をし、もっとたくさんの海外経験をつみたい。基礎学力をつけないと、海外以前に国内でも通用するかわからないとも強く感じた。来年も機会があればグローバルプログラムなどに参加し、自分を成長させていきたい。